
IS インフィニットストラトス オリジナルバトル

織斑一夏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS インフィニットストラトス オリジナルバトル

【Nコード】

N6545U

【作者名】

織斑一夏

【あらすじ】

織斑家の織斑一夏がIS「百式」を動かし、色色な敵と戦い、倒していく物語です。一夏はどう展開してゆくのか、見どころだと思います。

初めてのIS（前書き）

少し、違いますけど気にせず読んでください、ときどき、恋愛も入れたりしちゃうかも。

初めてのIS

チュン チュン

瞬きが出来ないほどの輝しい朝だった。

「朝・・・か。」

眠い体を起こし、2階に降りていった。

リビングに行くと、俺の姉「織斑千冬」がいた。

「おはよ、千冬姉。今日は、何が食べたい？」

自分で用意したコーヒーを飲みながら、

「何でもいい。」

と答える。毎回これなんだよなあ、もつと洋食が食べたいとか色々あるだろうにと思ってる

「何か言ったか？」

と言いつつ、いえ、何でもありません、と答える。千冬姉には、逆らえない。なぜかって？

それは後々話すとして。そろそろ朝食を作らないと、俺も受験に間に合わない

なる。手際良く、トーストやベーコンエッグなど、準備しさつそく食べ受験に必要なものを準備を始めた。

「一夏、行ってくる。遅れんように行くんだぞ。わかったな？」

「わかってるよ、もう子供じゃないんだから心配すんなって。」

「ああ、ではな」

と家を出て、学校に行った。え？千冬姉の仕事？それは今、話題になってる。IS学園の教師なんだって、言ってたがほんとかどうかは、わからない。噂で聞いた話だけだな。

さてそろそろ俺も試験会場に行かなきゃな。

家の力ギを閉め、自転車で会場に向かった。会場は、広く道が複雑で案内板などが一切なかった。まあ大丈夫だろうと思いついて進んでいると・・・

「………つ……わからん、道に迷ったぞ。」

試験会場の中で迷っていた。ええい、もう手探りでさがしてやる。そこにあるドアを開けると、

暗い部屋があった。奥には黒い機械みたいなものがあった。近くにいき触れようとしたら

眩い光が、放ち一瞬驚いたが、恐る恐る触れてみた。すると、頭の中に膨大な知識が入ってきた。

「わかる、これが何か分かる、動かし方も何もかもわかる……。」

「ちよつとそこの君、そこは関係者以外立ち入り禁止よ」

「待つてあの子ISと、共鳴してるわ。ISは女性にしか、反応しないのに。これは大ニュースよ。今すぐ本部に連絡して。」

「はい……。」

ばたばたと、騒いで1人の女性を残しどこか行ってしまった。

それから女性に車に乗せられ、ある施設に連れてかれある部屋に入った。奥に白い機械が置いてあった。すると

「織斑一夏君、その機体「百式」に触れてみてくれ、今までそれに触れた人……女性たちは動かせなかった。君なら動かせるだろう、では、試してくれ。」

俺は、その百式つてやつに触ってみた。しかしさつきみたいに、光を放たず普通に乗れた。

「一夏君、問題ないかね？」

と聞いてきたので、俺はコクリとうなずいた。

「でわ、今度から君はIS学園に通ってくれ。依存は認めない、では君の家まで送る。あと制服も後日送る。では。」

と言に残し俺はそのあと家に帰り昼食をとり、暇つぶしにテレビでも見てた。だが、頭の中に残る感覚がまだ残っている。

（俺、何で動かせたのだろうか、わからない。）

考えても何も出来ない、まずは夕食の準備に取り掛かろうとをもって立ち上がると、携帯が鳴った。

「千冬姉だ。なんだろう。」

とメールの内容をみると、今日は忙しく帰れないみたいだから夜は一人で食べてくれと書いてあった。

「しょうがないか、仕方ない一人で食べるか。」

と、食事の準備に取り掛かった。

「さすがに作りすぎたか？」

ご飯、卵焼き、とんかつ、野菜炒め、サラダ・流石に作りすぎた。

しかしそれ全部を食べてしまった。

「もう・・・食べねえ・・・ゲブツ」

食器をかたづけして洗い、そのあとは、風呂に入り、上で本を読み、10時を過ぎた頃、歯を磨き

寝た。それから何日か過ぎ制服と学生書と後何やら腕輪みたいなものが入っていて、学校に行く時はそれを付けるようにと説明書みたいのが入っていた。寮生活やら何やら書いてあったが、とにかく必要なものは全部バッグに詰めた。（はあ、何でこうなったんだ・・・）

第1話終了

どうも、長くなってしまいました。なにゆえ初心者でして・・・

・なにとぞ気分良く見て下さい

一夏が試験会場までは大体一緒？だと思います。この作品は、バトルをイメージした小説にしたいと思います。皆さん応援よろしくお願いします。

初めてのIS（後書き）

疲れました。意外と書くのって疲れますね。でも頑張って書くので
応援よろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6545u/>

IS インフィニットストラトス オリジナルバトル

2011年10月9日10時16分発行